

『命の大切さを学んで』

群馬県

群馬県立榛名高等学校 二年

金井 快翔かない はやと

今回僕は命の大切さを学ぶ教室を受講して、大切な命を守っていくには何を心がけていくべきなのか学びました。毎日のようにニュースを見れば悲しい事件や事故の話が報じられています。今までの僕は見聞きしても、どこか他人事で被害を受けた命の大切さについて深く考える事はありませんでした。

視聴した講話で、暴力によって息子の命を失った母親の悲痛な叫びを聞いて大きな衝撃を受けました。

「もし突然家族がいなくなったらどうしますか。」「何年経っても悲しみや怒りを忘れられない家族がいる事を知っていますか。」というメッセージには、心をグサツと突き刺されたような気持ちとなりました。もし僕が突然事故で死んだらどれだけ家族を悲しませるのだろうかという想像した時、犯罪の恐ろしさと命の重みを強く感じました。

多くの犯罪の中でも一番身近で誰にでも起こり得るのが交通事故だと思えます。今まで見てきた事故の中で僕が一番印象に残っている事故は、二年前に東京池袋で起きた高齢者による暴走事故です。二人の尊い命を奪い、多くの負傷者を出したこの事故が、アクセルとブレーキを踏み間違えた事が原因だったと知って本当に驚きました。最近よく耳にするようになった高齢者ドライバーの事故ですが、運転技能を考えると、免許返納をもっと勧めて、お年寄りが便利で暮らしやすい社会を作っていくべきだと思います。そして大切な命を守るためには、一人一人が交通ルールをしっかり守って、被害者やその家族のメッセージに耳を傾けていかなければいけないと感じました。僕自身も来年には車の運転免許を取ろうと思っていますが、加害者にも被害者にもなりたくありません。身勝手な判断や気持ちの緩みから事故を起こしては絶対にいけないのです。便利な車もドライバーの不注意で凶器に変わるといふ事を忘れはけません。自動運転の技術も進化しているようですが、あくまでも事故はドライバーの不注意で起きるわけだから、ハンドルを握る前の自己チェックを心がけるしかないと思いました。

事件や事故によって命が失われるという事が、どれだけ責任重大で、被害者家族の心に深い傷を負わせ、日常が奪われ、その後の人生までも変えてしまうという事を知りました。息子さんを暴力で亡くされたお母さんの手記の中で、「文字の向こう側」という話がありました。新聞記事に事件の内容と名前まで掲載された事で、周囲の人からの心無い言葉や視線に怯えながら生活しなくてはならない辛さを話されていたのが印象に残りました。大切な家族の命だからこそ、お母さんに見たら、小さな記事を読んだ人には解らない怒りや悲しみを勇気を持って語ってくれたのだと思います。このメッセージを聞いた事で、僕は命の重さや大切さを自分事として考えるきっかけをもらった気がしています。

今回の教室の話を視聴した事で、今まで当たり前前に生きているとしか思っていなかった考えが間違っていた事に気付きました。誰もが両親からもらった命、家族や周囲の人に助けてもらって生きている命なのだから。これからは、このお母さんのような犯罪被害者の言葉に耳を傾け、思いやりの心を忘れずに生きていきたいと思いました。

そして、すべての人が安心して暮らせる社会を目指すためには何が必要なかと言うと、それは今回僕が学んだように、もっと多くの人々が命の大切さを理解できるような講演を増やしてもらい耳を傾ける事です。交通事故を減らすためには、規則を勉強し直したり、少しなら大丈夫だろうという過信を捨てる事だと思いました。そういった一人一人の思いやりがあれば、大切な命を守ることができると思います。僕自身もこれからは、人に優しく、生きている事に感謝しながら毎日頑張っていきたいです。人間は一人では生きていけないのだから、みんなが笑顔でいられるような社会になっていったら良いなと感じました。